

外来診療予定表

2019年5月13日現在

診療科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総合診療科 (新)新患・(再)再来	(新)神保 (新)飯島	(再)壁谷 (再)神保	(新)神保 (新)中山 (新)小林	(再)神保	(新)土屋 (再)神保	(再)神保	(新)血☆寺崎 (新)血☆松崎 (新)☆板井	(再)壁谷 (再)神保	(新)神保 (新)松本	(再)壁谷 (再)中村
(循)循環器内科	(循)植田	(循)高松	(循)井上 (循)間淵	(循)井上	(循)☆山岸 (循)小野 (循)高松	(循)☆山岸	(循)植田 (循)鈴木(忠)	(循)長谷川 (循)鈴木(忠)	(循)井上 (循)小野 (循)☆山岸	(循)間淵 (循)飯島
(呼)呼吸器内科	(呼)中川 (呼)☆池田	(呼)中川	(呼)☆内田 (呼)☆池田	(呼)☆梅津	(呼)須賀 (呼)☆梅津 (呼)田口	(呼)☆内田 (呼)☆池田			(呼)中川	
(血)血液内科	(血)外山	(血)☆寺崎	(血)田原		(血)斉藤(貴)			(血)田原		(血)外山 (血)中山
(腎)腎臓・リウマチ	(腎)☆月田	(腎)☆太田 (腎)☆松崎	(腎)茂木		(腎)☆太田 (腎)☆月田		(腎)塚田	(腎)茂木	(腎)塚田	(腎)塚田
(糖)糖尿病内科	(糖)☆中原				(糖)☆朱		(糖)☆朱	(糖)☆中原	(糖)☆朱	(糖)☆中原
(甲)甲状腺				(甲)☆中原	(甲)西(1-2-3-4)					
(消)消化器内科 (肝)肝臓	(消)☆山口			(消・肝)壁谷		(消)☆山口		(消)秋谷		
(神)神経内科	(神)石川	(神)石川	(神)☆古田	(神)☆古田				(神)柴田	(神)中村(琢)	(神)中村(琢)(2-4)
脳神経外科	若林		甲賀/若林/小島		田村 甲賀		小島		甲賀	
心療内科	※五十嵐		※五十嵐 ※須田	※五十嵐 ※須田	※五十嵐		※五十嵐 ※五十嵐	※五十嵐		
外科 ()がん専門外来	熊倉 中里 (新)内田	(消化器)熊倉 (消化器)中里	石崎 ☆松本 (新)加藤	石崎 (乳)☆松本	設楽 ☆松本 (新)☆本田	(循環器) ※阿部(3)	設楽 加藤 (新)☆本田	(胃・大腸)加藤 ☆本田	高橋 内田 (新)菊地	高橋 内田 菊地
ストーマ外来									要予約	
整形外科	☆土田 橘 井野 装具外来 10時30分～		中島 勝見 ☆工藤	※角田	☆土田 有澤		中島 有澤		橘 ☆工藤 井野 装具外来 10時30分～	
リハビリテーション科			矢島		清水					
産婦人科 (婦)婦人科・(産)産科 助産師外来	(婦)吉田 (産)☆延命	※(術前)遠藤 吉田	(婦)☆延命 (産)吉田	(婦)吉田 (産)☆延命	(婦)吉田 (産)片貝	(婦)片貝 (産)吉田	(婦)☆延命 (産)遠藤	(婦)※遠藤 (産)☆延命	(婦)周藤 (産)☆延命	(産)周藤 ※池田
麻酔・ペインクリニック科	荒井/金井/藤原(電)						牛込			
小児科 (乳)乳児健診 (予)予防接種	渡部	(予)※岩脇 (内分)※田部井 (心臓)※岡田(3)	☆小山	(乳)※相馬 (乳)※岩脇 ※川嶋	相馬	※相馬 ※川嶋(2-4)	渡部	※渡部 ※☆小山	岩脇	※渡部(2-4) ※☆小山
小児外科								※鈴木 (1-3-5)		
耳鼻咽喉科		※14時30分～ 群大	※非常勤		※古屋	※14時～めまい 外来(5/15まで)	※群大	※14時～めまい 外来(5/23より)		
眼科	群大	群大	※[検査]	※[検査]	※[検査]	※[検査]	群大	群大	群大	※[検査] [手術]
皮膚科	嶋岡		嶋岡	[手術]	嶋岡	13時～15時手術	嶋岡	嶋岡	嶋岡	
泌尿器科	内田(達) 武井	内田(達) 武井	坂本 福田	坂本 武井	坂本		※内田(達) ※坂本		武井 福田	武井 坂本
緩和ケア外来						※15時～16時武井				
放射線治療科		※☆塩谷	※☆塩谷	※☆塩谷	※☆塩谷	※☆塩谷				※☆塩谷
歯科口腔外科	高山 ☆大隅	手術 手術	高山 ☆大隅	高山 ☆大隅	高山 ☆大隅	高山 ☆大隅	高山 ☆大隅	手術 手術	高山 ☆大隅	高山 ☆大隅
形成外科					敷(1-2-3-5)					

診療時間：8時45分～17時00分
受付時間：(午前)8時～11時 (午後)13時～16時 新患(初診)は午前のみ
※は完全予約 ☆は女性医師

■発行：〒375-8503 群馬県藤岡市中栗須813番地1 公立藤岡総合病院 経営管理部 企画財政課
(代表)TEL 0274-22-3311 FAX 0274-24-3161 URL <http://www.fujioka-hosp.or.jp/>

2019年 春号 発行日▶2019.5.31

公立藤岡 総合病院

地域医療連携だより

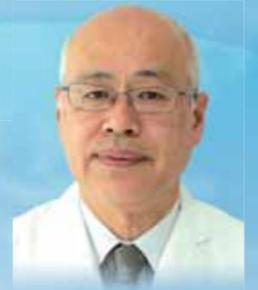
病院の理念
地域住民から信頼される医療

- 基本方針
- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、患者本位の医療を提供します。
 - 2 地域中核病院として、救急医療、高度専門医療の充実に努めます。
 - 3 地域の医療・介護・保健機関と密接な連携を行います。
 - 4 次世代の医療従事者の教育・研修に貢献します。

- 臨床研修は、医師が、医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割と医療チームの一員であることを認識し、一般的な診療において頻りに関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けると同時に医療安全への配慮を身に付けることを基本理念とする。
- 基本方針
- ・ 基本的知識・技能・態度を修得する。
 - ・ 患者中心の医療を理解し、実践する。
 - ・ チーム医療の重要性を理解し、実践する。
 - ・ 医療安全を深く理解し、実践する。
 - ・ 医療人としての倫理観を養成する。
 - ・ 地域医療の重要性を理解し、実践する。

新年度を迎えて

組合事業統括兼病院長 塚田 義人



この度、新年度から新たに病院長の職を拝命しました塚田義人です。5年間、病院長を務め、新病棟の建設、そして外来センターとの統合という大きな事業を成し遂げ、統合後の新たな病院運営に尽力された前院長の石崎政利先生のおあとを引き継ぐ形になります。公立藤岡総合病院は昭和26年に開設以来、藤岡多野地区をはじめ高崎・埼玉県北部を含めた生活圏の基幹病院として、徐々に診療規模を拡大し地域医療に貢献してきました。

平成の時代の30年余りの間に、医療技術の進歩と並行して、住民の人口規模や年齢構成の変化が生じ、疾患の様態が大きく変化した結果、求められる医療サービスはますます高度で複雑になっています。また、リハビリや介護の視点を抜きにしては医療を語れない時代になりました。これらの変化に呼応して必然的に医療政策の変転が生じるために医療現場は常に変動の最中にあります。新しい現実の中での地域中核病院のあるべき姿とは何なのかを絶えず自問しながら、冷静な現状分析と至適な対応を模索しなければなりません。その一方で「多野病院」と呼ばれていた時代より長い年月にわたり培ってきた、地域の皆さんにとって親しみやすく安堵できる場所、という信頼の原点は守り続けたいと思います。

当院の運営理念として掲げる「地域住民から信頼される医療」の意味を、職員一同とともに深くかみしめ、心が通い合いしかも水準が高い医療をお届けできる病院として進化を続けたいと思います。皆様のご支援を切にお願い申し上げます。

2019年度

新入職医師の紹介



糖尿病内科
部長
中原 理恵子



呼吸器内科
医員
板井 美紀



血液内科
医長
田原 研一



血液内科
医員
寺崎 幸恵



血液内科
医員
松本 彬



腎臓内科
医員
土屋 俊平



外科
医長
高橋 遼



外科
医員
本田 周子



外科
医員
内田 真太郎



整形外科
医長
橘 昌宏



整形外科
医員
工藤 千佳



整形外科
医員
有澤 信亮



整形外科
医員
井野 福央



泌尿器科
医員
福田 怜雄



産婦人科
部長
片貝 栄樹



産婦人科
医員
周藤 周



リハビリテーション科
医員
矢島 賢司



放射線診断科
医長
山田 宏明



臨床研修医
伊藤 望



臨床研修医
友金 佐光



臨床研修医
牛久保 陸生



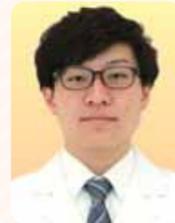
臨床研修医
石崎 正徳



臨床研修医
儘田 千尋



臨床研修医
土橋 里美



臨床研修医
黒岩 裕也



卒後臨床研修機能評価を更新受審しました



公立藤岡総合病院では、将来の医療を担う優秀な医師を育成するうえで、研修制度における指導体制や研修プログラム等に関して外部の評価を受けるため、平成31年1月21日にNPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による卒後臨床研修機能評価を更新受審しました。その結果、同機構が定める基準を達成したため、平成31年4月1日付けで認定され、最高評価のエクセレント賞をいただきました。



卒後臨床研修機能評価 エクセレント賞をいただきました

臨床研修統括部長 遠藤 究

この冬、寒さもまだ厳しい平成31年1月21日、当院にとって、第二回目の卒後臨床研修機能評価を受けました。前回、最初の評価にもかかわらず、4年の認定を受けるも、早いもので期限が迫って来ていたのです。不吉を暗示するような寒風のもと、それは粛々と執り行われました。しかし、我が研修管理センターの準備、当院の一眼の備えは万全で、何恐れるに足りませんでした。

当院の臨床研修医育成の取組みは、長きの歴史において、平成22年度の研修医1人の時代が底だったと考えられ、その年を期に、あらゆる取り組みを再構築、新たな手法を導入して、反転攻勢に打って出たのです。最も有効な制度は、研修センターを独立、病院長補佐の直轄事業として大きな権限を持たせたこと。また、メンターを凌ぐ、所謂、母性メンター制度が定まったことにあります。研修センターに3~4人の母性が常時配置され、公私事細かに研修医の環境整備を行うことを可能にしました。

こうした不断の努力と、改革の結果、高品質の研修医が集まり始め、いつしか定員を大きく上回る応募を受け、当院側が研修医を選択するまでに変貌してきました。この結果、平成27年には、初回の卒後臨床研修機能評価を4年の認定(初回から4年認定は稀)で受けることができ、その年の研修医レジデント・グランプリにおいて、準優勝を獲得。また、翌、平成28年には臨床研修医能力評価試験において、全国第1位を獲得するまでに成長しました。平成29年にはレジデント・グランプリにおいて、ついに優勝を獲得。平成30年にも、同第3位で維持し、今年、平成31年、二回目の卒後臨床研修機能評価を受審するに至りました。

平成31年4月1日付け、ついに栄光は舞い降りました。苦難の歴史からの改革、不断の努力、そして輝かしい結果の数々。やはり、何恐れるに足りませんでした。4年間の再認定のみならず、他の模範たるとして、認定エクセレント賞を受賞することができました。今後は、この賞を旗印に、新しい創意を持って取り組んで参ります。